

# みらいん

わかばやし

「みらいん」は、  
震災からの復興に向けて  
歩むまち・仙台の“ひと”と“地域”の  
今を結ぶ情報紙です。

第 16 号



◀ 荒浜を撮影した写真を手にする佐藤さん。展示のために、震災以前に荒浜で撮影された写真を集めています。写真をお持ちの方は 090-7933-3404 (佐藤豊さん) までご連絡ください

今月の  
ひと

ふるさとの姿を撮影し続ける

## 荒浜のアマチュア写真家

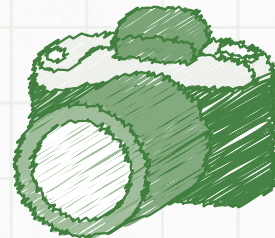
### 写真で荒浜の姿を伝えるのが役目

「荒浜で写真展示を続けていきたい」それが、佐藤豊さんの目標です。荒浜で個人商店を営んでいた佐藤さんは、50歳を過ぎてから写真を撮り始めました。山のキノコの鮮やかさに心惹かれ、毎週末県内の山々に通い、熱心に撮影したそうです。その後、南長沼でハクチョウの写真を撮り始め、現地で出会ったベテランの写真家仲間に教えてもらいながら、腕を磨きました。この頃から、自分が住む荒浜の風景撮影を始めました。

「お気に入りの場所は、震災のずっと前に深沼橋の近くにあった火の見櫓。写真始めたころに、上って結構写真撮ったの。でも全部流されて、いだましいね」と、佐藤さん。震災後は荒浜で行われる行事に駆け付け、写真を撮影し続けています。

「皆に、ふるさとの写真を見てもらいたい」との思いから昨年夏にはその写真と、さらに写真家仲間から震災前の荒浜の写真を提供してもらい、野外展示を行いました。展示は今年も開催予定で、より多くの方に見てもらえるよう展示場所や方法を模索しています。

「皆がちゃんと落ち着くまで続けていくよ。それが俺の役目だね。何年かかるかな？」  
いずれ、復興を遂げた暁に、自分の写真展を開きたいと教えてくれました。



2013

3月



元気な若林をもっと元気してくれた あの方々に また会いたくて

# 「みらいん」 わかばやし再訪記

平成23年12月に産声をあげた震災復興地域かわら版『みらいん わかばやし』。皆さんのご協力があつて、早いもので今回で16号を数えることになります。そこで、今まで紙面でご紹介した皆さんをもう一度訪ねてみよう、この特集を企画しました。

何かと不自由な仮住まいの生活にも慣れて、さまざまな工夫をしながら、少しでも楽しく毎日を過ごそうと努力を重ねている方々が沢山いらっしゃいます。そんな「元気印」の5人(団体)にお会いして感じた共通項は、『前を向いて』『助け合って』『地域(ふるさと)を大切に』の3点でした。



## 第3号 女子力から男女共同参画にシフトチェンジ 卸町5丁目仮設住宅自治会は昨年以上の賑わい

「みらいんで取り上げられてから、色々なメディアから問い合わせが来たんですよ」と話すのは、前会長の松木ひろみさんです。昨年の十一月から副会長になって、新会長の渡辺政志さんをサポートしています。松木さんを中心に女性役員による『女子力』で、この一年自治会をまとめてきました。会員の自主性を尊重しながら、手づくりクラブ・畑クラブ・カラオケクラブ・学習クラブなど交流の場づくりが成功しました。昨年十一月からの新役員は、男性三名女性二名の体制となりました。渡辺会長は「自治会の仕事には、力仕事やパソコン操作など、それぞれの得意分野の仕事を担当しています。新役員の男性陣も、とても頼もしいです」と新体制の順調な滑り出しに満足そうです。高齢者から子どもまで、集会所や仮設住宅の敷地から笑い声があふれ出すような、そんな自治会です。

「みらいんで取り上げられてから、色々なメディアから問い合わせが来たんですよ」と話すのは、前会長の松木ひろみさんです。昨年の十一月から副会長になって、新会長の渡辺政志さんをサポートしています。松木さんを中心に女性役員による『女子力』で、この一年自治会をまとめてきました。会員の自主性を尊重しながら、手づくりクラブ・畑クラブ・カラオケクラブ・学習クラブなど交流の場づくりが成功しました。昨年十一月からの新役員は、男性三名女性二名の体制となりました。渡辺会長は「自治会の仕事には、力仕事やパソコン操作など、それぞれの得意分野の仕事を担当しています。新役員の男性陣も、とても頼もしいです」と新体制の順調な滑り出しに満足そうです。高齢者から子どもまで、集会所や仮設住宅の敷地から笑い声があふれ出すような、そんな自治会です。



## 第5号 何故か色々な役目を仰せつかっています 東六郷地区に豊かな未来を築くために

三本塚町内会の会長を務める小野吉信さんは、明日の三本塚を考える会の代表として、次世代につながる豊かな三本塚をつくるために、住民に状態調査のヒアリングをしたり、地域内の移転希望者のサポートをするなど、その役目に奮闘しています。更に、役所との折衝、支援者との打ち合わせと、予定表は真っ黒に埋まっています。そこに舞い込んできたのが、「津波避難施設の整備に関する検討委員会」の委員就任です。仙台市沿岸地域の津波避難施設設置を検討する委員会、大学教授など専門家が多数、地元住民でなければ分からない実情や情報を反映するために発言しています。「どうしても、とお願いされると、断れないです。し、三本塚を含めて仙台市沿岸部の復興は、これからは、これからは、正念場だと思います。自分なりの使命感です。かね」と語る小野さんは、現役の会社員でもあります。

三本塚町内会の会長を務める小野吉信さんは、明日の三本塚を考える会の代表として、次世代につながる豊かな三本塚をつくるために、住民に状態調査のヒアリングをしたり、地域内の移転希望者のサポートをするなど、その役目に奮闘しています。更に、役所との折衝、支援者との打ち合わせと、予定表は真っ黒に埋まっています。そこに舞い込んできたのが、「津波避難施設の整備に関する検討委員会」の委員就任です。仙台市沿岸地域の津波避難施設設置を検討する委員会、大学教授など専門家が多数、地元住民でなければ分からない実情や情報を反映するために発言しています。「どうしても、とお願いされると、断れないです。し、三本塚を含めて仙台市沿岸部の復興は、これからは、これからは、正念場だと思います。自分なりの使命感です。かね」と語る小野さんは、現役の会社員でもあります。



## 第1号 荒浜ビッグウェーブ スポーツ少年団 冬でも練習できます!ハウス活用の練習場完成

「みらいん わかばやし」にとつて記念すべき第一号の表紙に登場したのが、スポーツ少年団荒浜ビッグウェーブでした。あれから一年二ヵ月、選手たちは新しい練習場で、以前より大きな掛け声を出しています。荒井地区にある真新しいビニールハウスが新しい練習場です。農業用のハウスより背が高く、中に入ると汗ばむような温度です。荒浜ビッグウェーブが練習場の確保に苦心しているというチーム事情を知った、荒井に住む堀江顕さんが資金を出し合い、堀江さんの所有地に約百二十平方メートルのビニールハウスを建て、練習場として無償で貸し出す事になりました。キャプテンの稲垣慶大さん(小五)は「こころ、寒い冬でも思い切り練習が出来ます」と張り切っています。斎藤泰監督も「今年、どんな大会でも良いから、優勝が目標です」と意気込みを語ってくれました。

「みらいん わかばやし」にとつて記念すべき第一号の表紙に登場したのが、スポーツ少年団荒浜ビッグウェーブでした。あれから一年二ヵ月、選手たちは新しい練習場で、以前より大きな掛け声を出しています。荒井地区にある真新しいビニールハウスが新しい練習場です。農業用のハウスより背が高く、中に入ると汗ばむような温度です。荒浜ビッグウェーブが練習場の確保に苦心しているというチーム事情を知った、荒井に住む堀江顕さんが資金を出し合い、堀江さんの所有地に約百二十平方メートルのビニールハウスを建て、練習場として無償で貸し出す事になりました。キャプテンの稲垣慶大さん(小五)は「こころ、寒い冬でも思い切り練習が出来ます」と張り切っています。斎藤泰監督も「今年、どんな大会でも良いから、優勝が目標です」と意気込みを語ってくれました。



## 第12号 これからも地域の皆さんとともにありたい 海楽寺は井土地区の皆さんが集う場に

取材を行った昨年九月は庫裡の修復が始まって間もなかった井土地区の真宗大谷派海楽寺。「地域の集会所として使ってもらいたい」と考えていた住職・大友雄一郎さんの思いが今年、実現しました。一月には、リフォームの進んだ庫裡に門徒さんをはじめ、井土に住んでいた方々が集まりました。同門の方々の協力のもと「親鸞教室」が開かれ、御勤めや、本紙「けんこうコラム」でおなじみ、徳照寺の佐藤和丸住職の講話などが行われました。「多くの方に集まっていたらいいです」と雄一郎さん。「地区に戻るにしろ、そうでないにしろ、皆で集まること大切だと思っています。今後は、さらに多くの人に集まっていたらいいです、笑顔になってもらいたい」と教えてくれました。教室は今年一年、月に一度開催される予定です。宗派、地域を問わず参加できます。次回は三月十七日(日)十三時三十分からの開催です。

取材を行った昨年九月は庫裡の修復が始まって間もなかった井土地区の真宗大谷派海楽寺。「地域の集会所として使ってもらいたい」と考えていた住職・大友雄一郎さんの思いが今年、実現しました。一月には、リフォームの進んだ庫裡に門徒さんをはじめ、井土に住んでいた方々が集まりました。同門の方々の協力のもと「親鸞教室」が開かれ、御勤めや、本紙「けんこうコラム」でおなじみ、徳照寺の佐藤和丸住職の講話などが行われました。「多くの方に集まっていたらいいです」と雄一郎さん。「地区に戻るにしろ、そうでないにしろ、皆で集まること大切だと思っています。今後は、さらに多くの人に集まっていたらいいです、笑顔になってもらいたい」と教えてくれました。教室は今年一年、月に一度開催される予定です。宗派、地域を問わず参加できます。次回は三月十七日(日)十三時三十分からの開催です。



## 第1号 NPOのサポートを借りて子育てに奮闘 今年春、由佳ママは第二子出産予定!

生後四ヵ月だった玲奈ちゃんを連れて、自宅があった荒浜から避難した高橋由佳さん。その後荒井小学校用地仮設住宅に移り、夫の光成さんと家族三人での新生活がスタートしました。由佳さんは慣れない土地、手狭な仮設住宅での子育てに奮闘。玲奈ちゃんの体調管理のため、洋服のママを着脱で寒暖の差に対応したり、NPO主催のあそびの会に参加したりと、新たな環境で子育てに取り組んできました。取材から一年ぶりに話を聞くと、「今は、ここでの暮らしにだいぶ慣れました」と由佳さん。毎週木曜日には「上荒井公会堂あそびば」にも新たに通い始め、周辺に住む顔なじみのママも増えてきました。そして今年春、高橋家にはもうひとつの新しい命が誕生します。健やかに成長する玲奈ちゃんと、もうすぐ生まれる赤ちゃん。二人のママになる由佳さんは、これから始まる四人暮らしを楽しみにしています。

生後四ヵ月だった玲奈ちゃんを連れて、自宅があった荒浜から避難した高橋由佳さん。その後荒井小学校用地仮設住宅に移り、夫の光成さんと家族三人での新生活がスタートしました。由佳さんは慣れない土地、手狭な仮設住宅での子育てに奮闘。玲奈ちゃんの体調管理のため、洋服のママを着脱で寒暖の差に対応したり、NPO主催のあそびの会に参加したりと、新たな環境で子育てに取り組んできました。取材から一年ぶりに話を聞くと、「今は、ここでの暮らしにだいぶ慣れました」と由佳さん。毎週木曜日には「上荒井公会堂あそびば」にも新たに通い始め、周辺に住む顔なじみのママも増えてきました。そして今年春、高橋家にはもうひとつの新しい命が誕生します。健やかに成長する玲奈ちゃんと、もうすぐ生まれる赤ちゃん。二人のママになる由佳さんは、これから始まる四人暮らしを楽しみにしています。



1日(火・祝) 2013 初日の出 (深沼海岸)



早朝、深沼海岸に到着すると数百名の人が集まっています。まるで山のように、水平線にとどまる雲。それに隠れるように昇った初日の出ですが、途中雲の隙間から現れた朝日は、荒浜地区を明るく照らしました。

18日(金) お猿さん、どこから来たの? (荒浜)



荒浜地区の撮影をしていたみらいんのカメラマンから、「道端にサルのお猿さんが置いてある」との情報。早速確認に行くと、かわいらしいお猿さんの石像が浄土寺の墓地にポツンと置かれていました。そこから少し南に進んだ斜向かいに雪に埋もれた一体とアヒルの石像が置かれていて、さらにその先にもアヒルが一体。どなたが所有していたものなのでしょう? 不思議なお猿さんの情報をご存知の方は編集部まで情報をお寄せください。

23日(水) これは暖かいねえ〜 (荒井2号公園仮設住宅)



皆さん思い思いの色布地に毛糸のボンボリを縫い付けて、オリジナルのネックウォーマーが出来上がりました。首まわりを暖かくするととても過ごしやすいですね。さて、お父さんの分もつくりましょう。

25日(金) 伝説のボーカリストがやって来た! (日辺グラウンド仮設住宅)



1970年代に細野晴臣らのティン・パン・アレーをバックに従えたアルバム「HORO」がヒットした小坂忠さんが弾き語りライブを行いました。現在は埼玉県所沢市で教会の牧師をしながらゴスペルミュージックを歌っています。震災直後からは毎月被災地を訪問して、避難所や仮設住宅の皆さんを励ますように、唱歌、昭和歌謡を皆さんと共に歌い続けています。日辺の皆さんも大きな声で懐かしい歌を何曲も唄い、予定時間を過ぎるほどの盛り上がりでした。

28日(月) 花とともに復興を! (夢メッセみやぎ)



「とうほく蘭展&バラとガーデニングフェスタ」が開かれ、会場の夢メッセみやぎは様々な花で埋め尽くされました。沢山のお客さんで賑わうその一角で、若林区内3カ所の仮設住宅の皆さんが手づくり品の販売をしました。石巻市の仮設住宅から来た方をはじめ、県内各地からお客さんが集まり大盛況でした。

29日(火) 中学生から見た地域の防災 (七郷中学校)



昨年10月から、学校を中心とした近隣地域を歩きながら、災害時の避難道路状況や防災設備の設置などを詳しく調べていた1年生の生徒たち。各地域の町内会役員に防災に関する話を聞き取るなど、地域住民と交流しながら、写真やコメントを地図上に表した防災マップを作成しました。この日は、町内会役員や消防職員などを招いて、「防災マップ学習発表会」を行い、発表を聞いた各町内会役員からは「防災に対する再認識になった」など、好意的な反響がありました。



31日(木) ガーデニングに小枝ちゃん (若松会集会所)



借上げ民間賃貸住宅の住民グループ若松会の集会所へ行く、小枝を組み合わせてつくられたガーデニングプレートづくりの真っ最中でした。「小枝ちゃん」と名付けられたプレートは、支援団体のイベントなどで販売し、売り上げを活動費に充てています。材料の小枝は、ケヤキや桜などの伐採の際に出向いて拾ってくるそうで、引き続き調達場所を探しています。小枝ちゃんを購入したい方や、小枝の調達場所などの情報をお持ちの方は左記までご連絡ください。

若松会  
022-285-7155(fax兼用)

まちの語り場

集団移転、単独移転、現地再建…。沿岸部にお住まいだった方は今、お住まいの再建に向けて地域ごとに話し合いを進めています。このコーナーでは、それぞれの団体に話し合われている内容についてお知らせします。

荒浜再生を願う会

荒浜に戻って生活再建を目指す住民有志が中心となって活動しています。



▶神戸や名古屋から来た支援者とともに熱心に協議する会員たち

1月21日(月)定例会議

- 内容 ●今年の活動計画について  
●荒浜フォーラムの開催について

当日の様子 今年の活動計画として、会員や支援者の手で田植えから稲刈りまで米づくりをすること。荒浜現地に歴史文化を示す物を展示し、荒浜由来の物品販売ができる場をつくること、などが話し合われました。また、昨年について2回目の荒浜フォーラムを5月に開催し、会の目指す荒浜の将来像について、仙台市民をはじめ広く世間に訴えていくことを協議しました。

問い合わせ先:代表 貴田喜一 090-8254-4270  
定例会議:毎週月曜日19:00~ 荒井小学校用地仮設集会所

東六郷移転推進協議会

種次中野地区にお住まいだった方が中心となり、浸水区域から六郷地区への集団移転に向けて先駆的に活動しています。



▶地権者代表の話に、耳を傾けるメンバー

1月21日(月)会議

- 内容 ●地権者代表との顔合わせ  
●資金計画の再確認

当日の様子 移転候補地の地権者代表との顔合わせで、土地売買の合意に向けた話し合いが行われました。地権者代表からは決済方法など、造成業者を挟まない民間の複数個人との契約という、特殊な案件ならではの問題点が指摘されました。また、移転候補地の坪単価、造成費についての再確認がなされ、金融機関との折衝を図りながら、より具体的な資金計画を立てていくことが協議されました。

問い合わせ先:代表 落合義光 090-4882-3368  
定例会議:随時開催

荒浜移転まちづくり協議会

集団移転の早期実施と移転後の荒浜の地域コミュニティ再生を目的としています。



▶市職員を交えて活発に協議するメンバー

2月15日(金)定例会議

- 内容 ●仙台市からの報告事項  
●国へ提出する要望書について

当日の様子 仙台市から、市が用地取得し造成する移転先工事がスタートする事。復興公営住宅公募買取事業の募集を締め切る事、近日中に決定事業者が公表される事。などが報告され、復興公営住宅の建設について協議会と協議しました。国への要望書に関しては、津波被災者への追加支援を強く訴える事とし、2月中の提出に向けて作成する事が協議されました。

代表 末永薫(問い合わせがある場合は直接定例会議においでください)  
定例会議:毎週金曜日19:00~ サンピア2F 会議室4

明日の二本塚を考える会

東六郷地区における農地と宅地の一体的な整備や住民主体のまちづくりを目指しています。



▶現地再建をした人も移転を希望している人も、次世代へつなぐ二本塚のコミュニティに関して沢山の意見を出し合いました

2月3日(日) 第7回 六郷東部地区 住まい・まちづくり学習会

- 内容 テーマ1 新たな農ある暮らし(都市隣接農業の実例)  
テーマ2 二本塚の持続可能な集落形成に向けてグループディスカッション

当日の様子 テーマ1は東京都練馬区の体験農園をサポートした杉崎和久さん(京都市景観・まちづくりセンター)によるお話がありました。都市住民と農家を結び取り組みは、仙台市都市部に隣接する東六郷地区農家にとって参考になる提言でした。テーマ2の持続可能な集落形成については、地域内移転予定土地の参考図面をもとにした移転後のコミュニティ形成や、住宅建築の方法について提案がありました。

問い合わせ先:代表 小野吉信 090-3122-4843  
会議、学習会は自由参加、随時開催



# 被災地レポート

取材地

## 庄哲鉄工所（荒浜地区）

残った工具を頼りに被災後も事業を継続

津波被害で耕作できない広大な田んぼが広がる若林区の沿岸部。日中は復旧工事車両が通る閑散とした幹線道路沿いに、兄弟で営む小さな鉄工所があります。一九八八年創業の庄哲鉄工所です。代表を務める庄子哲夫さんと弟の和夫さんが二人三脚で営んでいます。



海岸に通じる幹線道路沿いに構える工場



作業中の庄子哲夫さん

津波被害で耕作できない広大な田んぼが広がる若林区の沿岸部。日中は復旧工事車両が通る閑散とした幹線道路沿いに、兄弟で営む小さな鉄工所があります。一九八八年創業の庄哲鉄工所です。代表を務める庄子哲夫さんと弟の和夫さんが二人三脚で営んでいます。

物は盗難被害に遭いました。大量のがれきや周辺の車なども敷地内に流れ込み、哲夫さんは「工場の中はめちゃくちゃな状態でした。お金もなく、再開しても利益はマイナスになる一方だと思ひ、『どうすっぺ。どうすっぺ』って、思い悩みました」。加えて、震災当時、哲夫さんは脳こうそくで入院中でした。不況に津波、病氣と三重苦の大変苦しい状況で、廃業がより現実味を帯びたのです。しかし幸いにも、和夫さんが避難に使ったトラックには、現場で作業する工具類一式が残っていました。震災直後、被災したホテル屋上の貯水タンクの修理など、これまでにないほどの仕事が次々と舞い込み

ました。もはや前途を悲観してばかりいる状況ではなく、さまざまな注文に対応しなければいけませんでした。

復興需要に真摯に対応業務に地道に取り組み

正式に工場を再開したのは震災から約三カ月後。それまで、取引業者の応援を受けて敷地内のスクラップ約五トンを片付けました。大きな機械は外注で修理をし、中古の機具類を買いそろえました。被災総額は数百万円と深刻でしたが、仕事は震災前の二倍に膨れ上がりました。復旧名目で鉄骨製造の需要は伸び続け、高い利益を得ようとする業者もいたようですが、哲夫さんはそうした流れには一切同調しませんでした。「普段の仕事は注文に応じて製品をつくり設置するので、施主の人たちと会うことはあんまりないんです。でも被災した人たちの復旧修理では、そのお客さんに直接会ってその苦労を知りました。そういう方から利益を

得るより、信用を得ることが一番大事だと思っただけです」  
中学卒業後、家業を継ぐために職人になってほぼ五十年。現在の自宅は泉区にあり、鉄工所には車で通っているそうです。「もしもこの場所に自宅があったらどうだったろうかと考えることもあります。いろいろありましたが、周りからはよく、『生かされたんだよ』って言われます。確かにそうなのかもしれないですね。（被災地での）建物建設が本格的に始まれば、また忙しくなってくると思います。まあ、地道にしっかりとやっていくだけです」



震災後にそろえられた工具類が並ぶ工場内の棚

# 情報掲示板

仮設住宅やご近所で開催される催し物や相談会、支援団体による支援情報などを紹介します。

## 津波で流出した写真などをお返しします

東日本大震災の津波被害地域（宮城野区・若林区）でのがれき処理作業中に回収された写真、アルバム、賞状など思い出の品を展示し、所有者やご家族へお渡します。

対象 どなたでも入場できます

時 開催中（3月11日（月）まで） 9:00～16:30

場所 サンピア仙台（若林区蒲町東10）

主催 仙台市、震災復興ボランティア団体 おもいでかえる

☎ 022-214-3109 仙台市消防局減災推進課

## 東日本大震災慰霊祭のお知らせ

〈東日本大震災六郷地区津波犠牲者追悼式（三回忌）〉

時 3月10日（日）13:00～

場所 東六郷コミュニティセンター地内慰霊塔前

〈東日本大震災三回忌慰霊法要〉

時 3月11日（月）14:00～

場所 深沼海岸慰霊塔前

※駐車場に限りがあります。乗り合いにご協力ください

## 支えあいセンターからのお知らせ

借り上げ民間賃貸住宅（以下、みなし仮設）にお住まいの方を支援する支えあいセンター主催の、おすすめサロン・イベント情報です。すべて参加無料。

サロン・イベント名	対象	時	時間	会場	内容	申込	問い合わせ
お茶っこ交流会「季節の寄せ植え」	田子市民センター周辺のみなし仮設にお住まいの方	3月15日（金）	10:00～12:00	田子市民センター	季節の寄せ植えを楽しくつくりましょう（ハンギングバスケット協会）	要（電話）	支えあいセンター みやぎの 022-292-0990
寄せ植えサロン	泉区のみなし仮設にお住まいの方（定員20名）	3月15日（金）	10:00～12:00	泉区中央市民センター	寄せ植えで春の花を楽しみましょう	要（電話）	支えあいセンター いずみ 022-772-5755
はっと汁づくり	福沢市民センター周辺にお住まいの方	3月19日（火）	13:00～15:00	福沢市民センター	はっと汁をつかって、皆で楽しく食べましょう	要（電話）	支えあいセンター あおば 022-217-7234
第2回「やっべし石巻茶話会」	石巻から避難され、主に太白区内のみなし仮設にお住まいの方	3月23日（土）	10:00～12:00	太白区中央市民センター	同郷茶話会	要（返信はがき）	支えあいセンター たいはく 022-217-7234
ぶんぶんさんとあそぼう!!	若林区に避難されている未就学児のいる世帯	3月28日（木）	10:30～12:00	沖野市民センター	ぶんぶんさんによるパントマイム、バルーンアートほか多彩なパフォーマンス	要（返信はがきか電話）	支えあいセンター わかばやし 022-781-0559

※その他の交流サロンについては、支えあいセンターからのダイレクトメールでご確認ください

## 健康相談などのお知らせ

電話：022-282-1111（若林区家庭健康課・障害高齢課）

相談名	時	時間	会場	内容	担当	問い合わせ
母と子の健康相談	3月22日（金）	13:30～14:30	若林区役所3階	育児の心配や母と子の健康についての相談	保健師・栄養士・歯科衛生士	家庭健康課 内線6772
子どものこころの相談室	3月14日（木）	午後・予約制	若林区役所3階	震災後の子どものこころの健康に関する相談（要予約）	児童精神科医	
こころの健康相談	3月13日（水） 3月21日（木） 3月22日（金）★	13:30～16:00 ★の日は9:30～12:00	若林区役所3階	こころの健康に関する相談（要予約）	精神科医師、精神保健福祉相談員、保健師など	障害高齢課 内線6752
震災こころの相談	随時（土日祝日除く）	8:30～17:00	若林区役所1階窓口など	震災によるストレスやこころの相談	保健師など	障害高齢課 内線6307
高齢者総合相談	随時（土日祝日除く）	8:30～17:00	若林区役所1階窓口	高齢者の健康や介護・福祉の相談	保健師など	
認知症高齢者の家族交流会	3月15日（金）	13:30～15:00	若林区役所3階健康教室	認知症の方を介護している家族の交流会	保健師など	



## こころ編 薄板一枚

暮れに思ひがけず五針も縫ふ大怪我をしてしまいました。膝小僧が縦にパツクリ割れて骨まで見えたと言者から言はれました。寂かな年末が血に染まりました。

麻酔注射の強烈な痛さの中で先づ頭に浮かんだのは、あの日、この同じ状況で津波に襲はれ、傷口からバイ菌が入って大変な目に遭った人も少なからずあいらしたろうなあとといふこと。それからもうひとつは、還暦を迎える少し前から、毎日ある薬を飲み続けないと死に至る病気を患ってしまった私ですが、大地震で家屋が倒壊したり、家ごと津波に流されて大切な薬や医療器具を紛失してしまった方々も沢山くあらしただせうから、そのあと一体どうしたのかなあといふこと。

地球は生きてゐるとは云へ、あのやうな地殻変動さへなかったなら、今日も平穩無事な日常が続いてゐたわけですが、でも考へてみますと、実に現実には危なっかしく、荒海に笹の葉のごとく浮かぶ小舟が、薄い底板一枚で辛うじて助かっているのと同じに思へます。生と死は分けられないのです。紙の裏表のやうにいつもピツタリとくっついてゐるのです。

徳照寺 住職 佐藤和丸

### 佐藤和丸 (さとう かずまる)

若林区日辺の浄土真宗大谷派・徳照寺住職。情報誌への執筆や居酒屋での説法会などを行う、ユニークな人柄と行動力の持ち主。

## クロスワードパズル

出題  
石田竹久

こたえ 

A	B	C	D
---	---	---	---

1	2	3	4	5
6	7	8	A	
		9		
	10	11		12
13		14	15	
	16		17	B
18				D

### タテのカギ

- ①4月1日～6月30日、仙台・宮城観光キャンペーンが開催されます。キャッチフレーズは「○○○咲きたび伊達な旅」
- ②青葉区の小松島にある「瞑想の○○」は樹齢600年以上
- ③凸の反対
- ④○○○と実益を兼ねる
- ⑤ずんだ餅に使われることもある、香りと味わいのよい仙台ちゃ○○
- ⑥店のレジで読み取る、バー○○○
- ⑦オリンピックの旗は、○○○旗
- ⑧愛宕神社があり、広瀬川や市街地を一望できる愛宕○○
- ⑨船で人や荷物などを対岸に渡す所。かつては広瀬川にもありました
- ⑩仙台管区气象台によると、仙台市の○○○○気温は100年あたり2.3℃上昇と、他の大都市同様のヒートアイランド現象が見られます
- ⑪米が田なら、野菜などは?
- ⑫しろがねといえば銀、くろがねといえば?
- ⑬○○を食うとは、損をこうむること

### ヨコのカギ

- ①願いごとなどを書いて神社に奉納する絵の額
- ②気仙沼市に属する、東北地方最大の島
- ③卒業式、入学式、学芸会などは、○○○○行事
- ④宮城野区にあるみやぎ産業交流センター。愛称は、○○メッセみやぎ
- ⑤仙台市立の小・中学校で年度末まで取り組む「ふるさと復興プロジェクト」。児童生徒が登校時の○○拾いを行なったりします
- ⑥団体に宿泊するとき、いくつかの宿に振り分けること
- ⑦海岸に沿った平らな陸地
- ⑧川崎町、蔵王町、白石市、丸森町の県内4エリアで、3月15日まで続くイベントは、「三日月○○○○団 政宗の隠し財宝」
- ⑨400年ほど続く太白区の柳生○○。柳生小学校の卒業証書にも使用されています
- ⑩仙台市出身の土井晩翠は、青葉城や会津若松城を歩いて、『荒城の○○』を作詞しました
- ⑪お彼岸に墓前に供えられる○○○○○。仙台市近辺特有の、木材を使った造花です

### 前回のこたえ

A オ B ン C セ D ン

でした。

1	2	3	4	5
ユ	キ	オ	オ	カ
6	ケ	ワ	ウ	ミ
ム	ク	ン	シ	ゲ
11	12	ヤ	13	14
リ	サ	カ	タ	
15	16	17	18	19
オ	ウ	セ	ン	ナ
20	メ	シ	カ	マ

### 編集後記

「ゴン太」「ゴン蔵」「ハナ子」「チャコちゃん」と、呼び名は違えど対象は1匹。卸町5丁目公園仮設住宅のアイドル、メスの子猫。何と呼ばれようと、一緒に遊んでくれる人が一番好きだニャ。(きくち)

今年のスギ花粉の飛散量は前年の約7倍になるとの情報! みらいん編集部には8人もいるのに、花粉症は私1人だけ。症状はもちろん辛いけど、分かち合える人がいないのがさらに辛いです。(佐藤)

### お住まいを移転される方へ

お住まいを移転されると、移転先に「みらいん」が届かなくなる可能性があります。引越後も引き続き購読を希望される方は、編集部までご一報ください。

宛 先: 〒984-0011 仙台市若林区六丁の目西町2-12 「みらいん」編集部  
TEL: 022-390-5755  
FAX: 022-390-5756 e-mail: kawara@mwww.or.jp